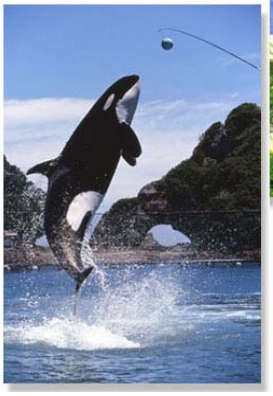
和歌山県
Wakayama Prefecture

和歌山だより

平成21年
（2009）
8月号



くじらの町（太地町）
上：世界一のスケールを誇る
（町立くじらの博物館）
下左：シャチ
下右：ザトウクジラのモニュメント

CONTENTS

1. 知事メッセージ・・・・・・・ P1

2. 和歌山県政トピックス・・P2～P9

3. お知らせ・・・・・・・・・・・・・ P10～P11

4. ふるさと人物紹介・・・・・P12

5. ふるさと歳時記・・・・・・・P13～P15

アザミ

「もう近畿のオマケではないぞ」

私が知事に就任したとき、統計を色々調べて見ましたら、和歌山は過去３０年間の成長率が４７都道府県中ビリでした。結構高かった生活水準もジリジリ下がり、おまけにカレー事件だ、知事や市長の汚職だと恥ずかしい事も起こり、我々の誇りはズタズタになりました。

その時に我々が自らを揶揄（やゆ）して使った言葉が「近畿のオマケ」です。しかし、栄光の和歌山がオマケではたまりません。そう考えて我々は立ち上がらなければなりません。そして立ち上がり始めました。現に雇用状況を表している有効求人倍率という数字は近畿でトップ、日本で５位まで上がりました。出生率の伸びも全国トップになりました。誘致企業数も急に増え始めました。元気な中小企業で表彰を受けた企業数も、世界の優秀食品に賞を授与するモンドセレクションの受賞者数も当県は抜群です。農産物も当県産品だけは、他は総崩れの中で何とか市況を保っています。今まで当県を全国から取り残す原因となってきた高速道路もこれから急速に整備の運びです。私は、長年の低迷で体力をなくしている企業や家計がこの不況の中で耐えられるかハラハラしていますが、我々はもはや「近畿のオマケ」ではありません。

「ルーキーズ」という人気映画があります。ダメだと言われていた若者達が頑張って結束し強い野球チームを作っていく話です。大いに感動します。和歌山も正しい処方箋を描いて、汚職や談合、足の引っ張り合いなどくだらないことにエネルギーを使わず、皆が工夫をしながら正業に励み、いたわりの心を失わず、よい若者を育てていけば、その未来はきっと「近畿のエース」であると信じます。ずっと和歌山でふるさとを愛し、歌い続けているウインズの「近畿のオマケ」の最新版では、和歌山は「世界のエース」なのです。

国体準備委員会の総会で挨拶する仁坂知事。
二巡目を迎える和歌山国体は２０１５年（平成２７年）に開催予定です。

今月の和歌山県政トピックス

＊ 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

●和歌山産桃のトップセールス（大丸京都店）

日　時：平成２１年７月１５日１４：００
場　所：大丸京都店　１階　案内所特設ステージ

・和歌山県産桃の主力品種である「白鳳」が本格的な出荷時期を迎える中、大丸京都店において主産地である紀の川市と協力し、桃のＰＲを行いました。
・会場では、仁坂知事、紀の川市長、ＪＡ紀の里組合長がトップセールスを行い、本県産桃の特徴や安全性の確保などを大いにＰＲしました。
・また、浴衣姿の和歌山と京都の野菜ソムリエによる桃の効能、健康や食べ方、レシピなどに関するトークショーも同時に開催されました。
・最後には、来店客５００人に合計１０００個の桃を無料でプレゼントし、会場は大盛況となりました。
・今回は、京都和歌山県人会から会長はじめ多くの方々に出迎えていただき、大いに会場を盛り上げていただきました。ありがとうございました。

京都和歌山県人会の皆さん

●第９１回高等学校野球選手権大会出場「智辯学園和歌山高等学校」の壮行式開催

・５年連続１７回目の高等学校野球選手権大会に出場する、「智辯学園和歌山高等学校」の健闘を祈るため、県庁正面玄関前において壮行式を開催しました。
・壮行式には、高嶋監督や選手１８人が出席し、多くの来賓や市民、約２００名で賑わいました。
・左向主将は、「県民の皆様の期待に応えられるように、守備を生かして、甲子園で１つ１つ勝利を積み重ねていきたい。」と試合に賭ける意気込みを話しました。
・ 深紅の優勝旗まで、がんばれ、智辯学園和歌山高等学校！！

● ①クエのまち（日高町）テーマソング②白浜町応援歌「白浜のパンダの物語」完成

①「クエの町（日高町）テーマソング」

・７月１６日、クエのまちおこし応援歌関係事業の一環として、日高町商工会が取り組んできたクエのまちテーマソングの完成報告に、冨安県議会議長、中日高町長、石家日高町商工会長、北垣日高町商工会青年部長、テーマソングを歌う、ピアノデュオ「ＱＵ－Ｅ（クエ）」が県庁を訪れました。

・日高町長がクエのまちテーマソング２曲（「九絵のバラード」、「クエクエ boogie-woogie」）が収録されたＣＤを知事に手渡しました。

・日高町商工会が「作詞家で国立大学法人和歌山大学観光学部客員教授でもある、もず唱平先生指導の下、観光学部の学生さんが作詞を担当、協力を得ながら取り組んできました。」とテーマソングが完成するまでの経緯を説明しました。

・最後に、ＱＵ－Ｅが「クエクエ boogie-woogie」を迫力ある生演奏により披露しました。

（ピアノデュオＱＵ－Ｅ　ボーカル：ＴＯＭＹ、キーボード：ＳＡＳＡＧＵ）（写真）

②白浜町応援歌「白浜のパンダの物語」

・７月２８日、白浜町応援歌「白浜のパンダの物語」完成報告のため、立谷白浜町長、この応援歌を製作された白浜町在住の下岡高幸さん、前田泉さん、山根康民さんが県庁を訪れました。

・下岡さん、前田さん、山根さんは、だれでも楽しめる音楽で白浜町の応援をしたい、盛り上げたいと考えて製作したことなど、白浜町への熱い思いを語ってくれました。

・　「白浜のパンダの物語」は、パンダが白浜町内を巡るという楽しい内容で、サンバのリズムを基本に、サビの部分には円月太鼓のリズムを取り込んで地域色豊かな曲になっています。

・　立谷白浜町長は、ＣＤを知事に手渡し、「今後は、白浜町の応援歌として機会ある毎に活用できるよう考えていきたい。」と話されました。

・今後、両歌を県としても大いにバックアップし、和歌山県情報館の You Tube 等を活用し、動画配信していきます。

今月の和歌山県政トピックス

●「企業の森」事業に１団体が参画し、５０箇所に

・ 本県が進める「企業の森」事業に新たに「中田食品株式会社（清姫の森）」が参画することとなり、７月２１日に県庁で調印式を行いました（写真）。

・「清姫の森」は、安珍と清姫伝説の「清姫」の出身地が、植樹予定の田辺市中辺路町真砂地区であることにちなんで名付けられました。当地区には、清姫のお墓や、清姫が身を投げたといわれる清姫淵があります。

・「企業の森」は県内で現在４９箇所あり、今回の中田食品株式会社の参画で５０箇所となります。県長期総合計画では、１００箇所に増やす目標を掲げています。

●住友金属工業㈱和歌山製鉄所で新第１高炉の「火入れ式」を挙行

・7 月 17 日、住友金属工業㈱和歌山製鉄所で、新第１高炉の竣工式（火入れ式）が行われ、下妻住金会長や仁坂知事、工事関係者など約 200 人が出席しました。式典では、「羽口（炉に熱風を送り込む場所）」から次々と火のついた松明を投入したあと、和歌山製鉄所長によって送風がなされ、新しい高炉が操業を開始しました。

「火入れ式」の様子

・和歌山での高炉新設は実に 40 年ぶりのことです。

・ この新第１高炉については、生産能力が増大することは勿論、炉の寿命を延ばすために、永年の操業で培ってきた様々な技術が駆使されています。

・また、新第２高炉の建設が 2012 年下期の完成を目指して計画されており、これら一連の投資が完了すれば、和歌山製鉄所の生産能力は年間 400 万トンから 520 万トンに生まれ変わります。

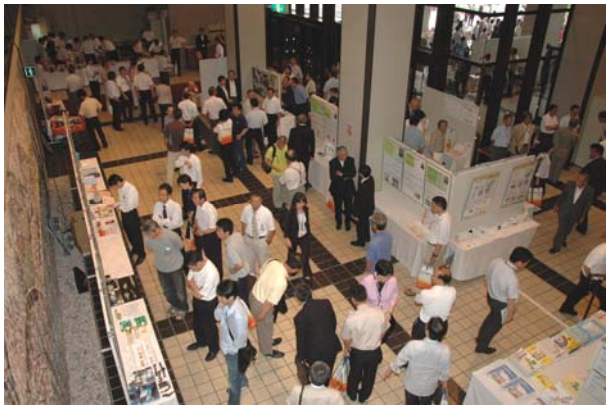
完成した新第1高炉

・同社においては、これまでも弛まぬ技術革新と次の時代を見据えた投資を実行され、世界ナンバーワンブランドのシームレス鋼管をはじめ、様々な製品が世界から高い評価をうけています。

・今回、火入れが行われた新第１高炉や、これから建設される新第２高炉等が、住金の新たな飛躍の原動力となって、県経済を力強く支えるものと大いに期待しています。

●一日中小企業庁 in 和歌山を開催

・７月１１日、紀南文化会館（田辺市）において、一日中小企業庁 in 和歌山が開催されました。
・「一日中小企業庁」は、中小企業庁長官を始めとする中小企業庁職員が地方を訪れ、地元中小・小規模企業や関係機関に施策の説明を行うとともに、意見交換などを通じて中小企業施策への理解を深めることを目的に開催されるイベントです。
・今回の「一日中小企業庁 in 和歌山」では、テーマ別にフォーラムを開催しました。
・　「中小企業フォーラム」では、二階経済産業大臣も出席され、中小企業庁長官による政策紹介や「元気なモノ作り中小企業３００社」の県内選定企業の紹介などが行われました。
・「商店街にぎわいまちづくりシンポジウム」では、新・がんばる商店街に選定された田辺市や湯浅町の取り組みが紹介されるとともに、今後の商店街に求められるものや、その役割について議論がなされました。
・「地域資源・農商工連携フォーラム」では、仁坂知事を進行役に、パネルディスカッションが行われ、パネリストの方々の成功の秘訣の紹介、農商工連携の取り組みについて議論されました。
・また、会場には、県内企業の取組紹介や国及び県などの施策紹介コーナー、一日中小企業相談コーナー、地域産品の物販コーナーも開設され、延べ１，３００人の来場者を集めました。
・この機会を捉え、県経済５団体が、中小企業庁長官に対して、小規模企業対策予算の十分かつ安定的な確保や、地域の特性を踏まえた産業振興や新産業創出に対する支援の強化等の県内の中小企業活性化につながる施策を求める要望を行いました。



にぎわう県内企業紹介コーナー

経済５団体から中企庁長官に要望書を提出

●和歌山市磯の浦海水浴場で１１年ぶりにウミガメの産卵を確認

・和歌山市の磯の浦海水浴場で、６月末の早朝、ウミガメの産卵らしき跡を発見したという情報を受けて、現場調査を行ったところ、砂浜の深さ４０ｃｍのところにピンポン玉位の卵を発見しました。
・磯ノ浦海水浴場での産卵は、平成１０年８月に確認されて以来１１年ぶりのことです。
・今後、孵化するまで、磯の浦管理運営委員会が産卵場所を大切に守っていく予定です。
・和歌山の海岸が、ウミガメが訪れるまで美しくなったことを嬉しく思うとともに、全国に誇る和歌山県の環境を守っていくことの大切さを再認識させる出来事でした。

今月の和歌山県政トピックス

●「平成２１年度大阪和歌山県人会総会」開催

・７月２５日、ホテル「アウィーナ大阪」において、平成２１年度の大阪和歌山県人会総会が開催されました。大阪和歌山県人会は、昨年、会員相互の親睦と和歌山の発展を目的に、約１０年ぶりに復活され、県としましても大変心強く感じています。

挨拶する佐竹会長

・総会では、佐竹会長の挨拶、事業報告や会計の議案審議の後、懇親会が行われ、カラオケ歌自慢などにより終始和やかな雰囲気で、楽しいひとときとなりました。

・　また、田辺市産業政策課の職員が、田辺地方の色々な梅酒をＰＲするため、試飲コーナーを設けました。

・なお、会場受付で、ふるさと応援寄付ブースを設置させていただきました。皆様のご協力ありがとうございました。

●第６回世界ユース陸上選手権大会への出場

・平成２１年７月８日～１２日、イタリアのブレッサノーネで開催された「第６回世界ユース陸上競技選手権大会」に、県立和歌山北高等学校２年生の九鬼巧選手と中尾優里選手が日本代表選手として出場しました。

県庁を訪れた、九鬼選手（前左）中尾選手（前右）

・陸上競技の九鬼巧選手は、６月１９日に奈良県の鴻ノ池陸上競技場で開催された近畿高校総体で100m を県高校記録となる 10 秒 34、中尾優里選手は、県記録となる 11 秒 87 で走り、この記録をもって、日本陸上競技協会から日本代表選手として選考されました。

・なお、陸上競技で、和歌山県からジュニアの世界選手権に出場するのは、平成２年以来１９年ぶりの快挙です。

・世界ユース陸上選手権大会では、九鬼巧選手が 100m で６位入賞、男子メドレーリレーで銅メダルを獲得、中尾優里選手は、女子メドレーリレーで８位に入賞し、和歌山県のジュニア選手が世界選手権大会で初めてメダルを獲得しました。平成２７年国体に向け、素晴らしいアスリートが誕生することは非常に心強いことです。

◇　九鬼　　巧（和歌山北高等学校２年）
　・男子１００ｍ　　１０秒８８（６位入賞）
　・メドレーリレー　　１分５２秒８２（銅メダル）
　　〔日本チーム（九鬼－山縣－芽田－籾木）〕

◇　中尾　優里（和歌山北高等学校２年）
　・メドレーリレー　　２分１０秒２７（８位入賞）
　　〔日本チーム（中尾－藤田－山本－高橋）〕

●「わがまち元気プロジェクト第１弾」及び「新農林水産業戦略プロジェクト第２弾」！！

★わがまち元気プロジェクト　第１弾！！

・地域固有の資源を活用し、個性豊かで活力のある地域づくりを推進する「わがまち元気プロジェクト」の第１弾として、「九度山町」と「すさみ町」のプロジェクトの支援を決定しました。

・「九度山町」は、関ヶ原の合戦の後、真田昌幸、幸村父子が九度山に隠棲した歴史に着目し、“真田幸村”ゆかりのスポットを、語り部の案内で散策したり、信州真田仕込みの“紀州真田そば”に舌鼓を打ったり、軒先に飾られた「真田の赤甲冑」を見学するなど「真田」ブランドを生かしたまちづくりを進めるものです。

九度山町　まちなか休憩所“真田いこい茶屋”

・「すさみ町」は、イノブタを核にしたまちおこしです。
イノブタは、「イノブタ・ダービー」や「イノブータン王国」など、既に町のシンボルとなっていますが、町内ではイノブタ肉の生産がほとんど行われていなかったことから、イノブタ生産量を増やすとともに加工品の開発、そして、町内宿泊施設等での各種イノブタ料理の提供など名実ともに“イノブタの町すさみ”を目指すものです。

すさみ町　イノブタ“イブの恵み”

★新農林水産業戦略プロジェクト　第２弾！！

・第１弾（伊都地方のトマト）については、７月号で紹介したところですが、７月２８日、第２弾として、下記７プロジェクトを承認しました。

① **しもつみかん(貯蔵みかん)高品質生産及び加工品開発、販路開拓**
（ながみね農業協同組合（海南市下津町））
しもつみかん(貯蔵みかん)の高品質生産や加工品開発,首都圏や海外（台湾等）への販路開拓

② **県オリジナル品種「ゆら早生」のブランド確立と販売促進**（ゆら早生ブランド確立協議会（県全域）
オリジナル品種である「ゆら早生」みかんの生産対策と販売促進

③ **柿酢を活用した新商品開発と販路拡大**（しんおか農産加工組合(かつらぎ町)）
飲みやすい柿酢ドリンクの開発とコンビニエンスストアや量販店への販売促進

④ **有田みかん早和ブランドの生産拡大と加工・販売促進**（(株)早和果樹園(有田市)）
みかんの加工品（ドレッシング、ポン酢等）開発と百貨店や高級スーパーへの販売促進

⑤ **冷凍梅の販路開拓と新たな梅加工品の開発**（紀南農業協同組合(田辺市、上富田町)）
梅の加工品（果実デザート、飲料）開発と冷凍梅の海外（シンガポール等）や国内量販店への販路開拓。

⑥ **イノブタの繁殖・肥育一貫生産体制の構築と販売促進**（すさみイノブタ生産組合（すさみ町））
「わがまち元気プロジェクト」と連携した、イノブタの生産拡大と首都圏レストランへの販売促進

⑦ **ヒロメの一元集出荷体制による生産拡大と京阪神への販路開拓**（和歌山南漁業協同組合）
ヒロメ（海藻）の冷凍加工品や料理方法の開発、京阪神地域の量販店への販売促進

今月の和歌山県政トピックス

貯蔵みかん

柿　酢

みかん加工品

ヒロメ（コンブ目）

・今後、他の市町村等に対しましても、地域の魅力や特色を生かした地域おこしを積極的に働きかけ、取組の拡大に努めていきます。

●７月中の梅雨前線豪雨への県の対応

７月６日から７日にかけての梅雨前線豪雨による県中南部地域の災害被害は甚大なものとなりました。先月号でもお知らせしましたが、田辺市では会津川が氾濫、県、市、地元消防団等の懸命な働きにより被害を最小限に食い止めたものの、床上浸水や床下浸水、１名の犠牲者が出るなど痛恨の極みです。

・さらに、県内各地で道路・河川・砂防施設等の公共土木施設災害や農地・農業施設等の農業被害額が約７億２千万円、林道・治山等の森林被害額が約７億１千万円にのぼるなど被害は甚大です。県は「激甚災害に対処するための特別の財政援助等に関する法律」の早期適用を国に働きかけるなど、早期の完全復旧に向け全力で取り組んでいます。

・　また、７月２１日に山口県で土砂災害が発生し、特別養護老人ホームで多くの犠牲者が出ました。本県では、こうした大災害を未然に防ぐため、平成１９年に土砂災害危険箇所にある特別養護老人ホームや保育園等の「災害時要援護者施設」を点検したところですが、今回、緊急に２０２箇所で土砂災害の危険性についての点検をあらためて実施することとしました。

・本県では和歌山地方気象台と共同で大雨により土砂災害の発生が予想される一定の基準（土砂災害警戒避難基準）を超えた場合、市町村長が避難勧告を発令する際の参考となるよう、リアルタイムに土砂災害警戒情報を発表、伝達しています。７月２９日～８月１１日の期間中には、この土砂災害警戒情報の伝達訓練を実施するなど、常に「誰も見捨てないぞ」という心意気で、災害対応体制の点検をしています。

●和歌山徳島航路（南海フェリー）利用促進事業を開始

・今春から始まった高速道路料金の大幅値下げは、観光振興や物流コストの軽減につながるなど、それ自体は喜ばしいことなのですが、その反面、高速道路や本四架橋と競合していたフェリー業界に大きな打撃を受けることとなりました。

・南海フェリーが運航する和歌山徳島航路（和歌山港～徳島港）も例外ではなく、利用客が昨年と比較して２５％減少するという状況になりました。

・和歌山徳島航路は、和歌山市から徳島市まで高速道路を使うと３時間以上かかるものを２時間で結んでいるということだけでなく、環境に優しいモーダルシフトの受け皿として、また、大規模災害が発生したときの物資輸送など、どうしても守らなければならない航路です。

・和歌山県では、高速道路料金の大幅値下げが打ち出された時から、こういう事態となる

ことを予測し、早い段階から国に対し「フェリーに対する均衡ある施策」を実施するよう強く要望してきましたが、何ら国の手当がされないまま、今般の航路存続が危惧される事態に至り、緊急避難的に社会実験という形で、徳島県、南海フェリーと共同で利用促進事業を実施することにしました。

・その内容は、４人家族が和歌山市・徳島市間を高速道路で移動した時と同じフェリー料金を実現するというもので、一定の条件の下、同乗者運賃を別途として、乗用車の運賃（５m未満で９，３００円 ）を１，０００円に引き下げるというものです。

・７月１８日（土）からスタートした所、その反響は大きく、７月２６日（日）までの利用状況を昨年の同期間と比較すると、乗用車の利用台数が４０％増、同乗者人数が１９．７％増とそれまでマイナス２５％で推移していたことと比べると、大幅に改善しています。

・現在の事業は、夏休みが終わる８月３１日までを予定していますが、内容を変えながら、半年程度続けることにしており、この結果なども踏まえて、さらに国に均衡ある施策の実施を求めるなど、航路の存続に向けた取り組みを行っていきます。

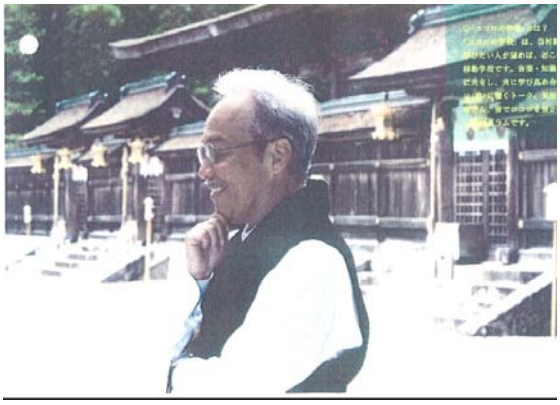
●谷村新司さん「ココロの学校」熊野本宮大社で開校

・７月７日、「紀伊山地の霊場と参詣道」世界遺産登録５周年を記念して谷村新司さんの「ココロの学校」が熊野本宮大社で開催されました。

・「ココロの学校」は谷村新司さんが校長となり、学びたい人のもとへ出かけていく全国展開の移動学校で、音を肌で感じるライブとココロに響く温かいトークで共に学びを高め合って行く「場」です。

・開校に先立ち、仁坂知事と谷村新司さんとの対談がおこなわれました。

・知事が「登録５周年の七夕の日に熊野に来ていただいて、大変嬉しい」と話すと、谷村新司さんは「熊野は癒し・よみがえりの聖地といわれるだけあって非常に奥深い。熊野に来るたび自分のなつかしい故郷のように思え、子供の頃の原風景と重なりインスピレーションが高まる。」「七夕の短冊を飾るなど地元の皆さんも盛り上げてくれているので、ココロの学校の開校が待ち遠しい。」と語るなど、対談は九鬼宮司も交えて和やかにおこなわれました。



・夜には熊野本宮大社の社殿前で「ココロの学校」トーク＆ライブが開催され、約１０００人の聴衆を前に、「昴」「いい日旅立ち」などのヒット曲や熊野をイメージした「ひぐらし」の熱唱、ココロに響くトークが繰り広げられ、心が洗われる２時間となりました。

まるかじりわかやま

和歌山の旬のこだわり情報をお届けします

おいしさ抜群 紀州仕立ての鮎！

大自然にとけ込んで鮎釣りに没頭

～和歌山県は養殖鮎の生産日本一！～

和歌山県の養殖鮎の生産量は平成 19 年度産で 1,038 トンと全国１位（「平成 21 年和歌山の水産」和歌山県より）で、築地市場での取扱量は３分の１が和歌山産で占められています。

生産量１位となった背景には、県内で稚鮎生産を安定的に行っていることが理由として挙げられます。

（平成 19 年度産内水面漁養殖鮎の生産量）　　（単位：ｔ）

順　位		1	2	3	4	5
養殖鮎 生産量	全国値 5,087	**和歌山** **1,038**	愛　知 860	徳　島 763	滋　賀 551	岐　阜 505

～清流の女王「鮎」～

夏の旬の食材と言えば「鮎」、和歌山県では５月下旬から６月中旬にかけて鮎釣りが解禁となり、県内山あいの清流でオトリを使った友釣りを楽しむことが出来ます。

有田川では、「鵜飼（うかい）」といって鵜匠が鵜と一体になって松明（たいまつ）をともしながら川の鮎を捕る漁法が行われており、県無形民族文化財に指定されています（写真）。

また県内清流では、様々な鮎釣り大会が開催されるなど、シーズンになると県内外から訪れる釣り人で賑わいます。

有田川の鵜飼の様子

～鮎のブランド、「紀州仕立て鮎」～

「紀州仕立て鮎」は、平成 16 年度に和歌山県鮎養殖漁業組合が育てたこだわりの鮎。

「紀州仕立て鮎」は天然ものにひけをとりません。技術の向上で追い星（体の黄色部分）の発現にも成功しました。

自然に近い状態で育てるには何と言っても水が命。養殖池には紀の川の豊かな伏流水（地下水）を引いています。

餌の原料について試行錯誤の結果、良質の鮎が生産出来るようになりました。

組合としても築地市場を中心に流通や外食産業への売り込みに力を入れています。

鮎の世話に余念がない酒井さん

～「鮎」つながり話～

夏の風物詩として昔から人々に愛された鮎は、各地で貢物にされてきたとはご存じですか？戦況や豊作・凶作の占いにも用いられた貴重な魚で、「鮎」という漢字はここからきています。

また鮎は、１年で一生を終えるので「年魚」、夏野菜を感じさせる独特の香りがあるので、「香魚」とも呼ばれます。

【蓼酢（たで す）】

焼き鮎に必ずと言っていいほど添えられる緑色の酢（写真右上）、蓼酢ってご存じ？柳蓼（やなぎたで）の葉をすりおろして作られる酢で、鮎釣りをするような河原に生えているのです。

【鮎の和菓子】

上品な鮎の姿をかたどった御菓子（写真右下）で６月～８月末までの季節もの。和歌山県内の和菓子屋でも並んでいます。こちらもよろしく！

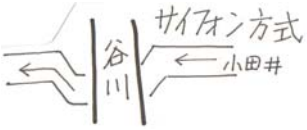
ふるさと人物紹介（大畑才蔵）

和歌山県には、和歌山の発展に尽くした歴史上の先人がたくさんおられます。そうした方々の功績をご紹介させていただきます。

～「紀ノ川」からの小田井用水を完成させた治水の神様　～
大畑　才蔵（おおはた　さいぞう）1642～1720 年　橋本市学文路出身

・昔、紀ノ川の北岸は「月夜でも乾く」と言われたほど水がありませんでした。その問題に力を尽くし、用水路小田井を完成させた人が大畑才蔵です。
・江戸時代、紀州藩は飢饉などにより、財政が苦しく、財政を立て直すために米の収入を増やすことを考えます。
・その時、適任者として目にとまったのが学文路村（橋本市）に住む、大畑才蔵でした。
・才蔵は小さい頃から、計算が得意で人格もよく、庄屋の仕事をしながら、測量や土木の技術もありました。
・１６９６年、才蔵が５４才の時、紀州藩の役人に命じられ、才蔵は、藩内を調査し、米の収入の少ない土地は、水不足が原因だということに気づき、米の生産を増やす方策を考えました。
・同じく、農民出身の井沢弥惣兵衛（１６５４～１７３８）と共に考え出された方策の一つが「紀州流水工法」。これは、曲がりくねった川を堤防ではさんで、真っ直ぐに工事するものです。
・これによって洪水が抑えられ、また曲がっていた川の部分の土地が養分も豊富で新田として使えるため、米の生産が大きく増えました。そういう堤防の工法は今では全国どこでも見られますが、発見したのは紀州藩のこの２人なのです。

・また、才蔵は、工事の区間をいくつかに分け（割り当て区間）測量したり、必要な資材や土の量、人数を細かく計算することで無駄をなくし、また、各区間で同時着工することにより工期を短くするなど、現在と同じような合理的な方法を生み出しました。
・中でも難工事だったのは、小田井。橋本市内の小田から岩出市の根来川まで全長３２．５ｋｍを山から流れる谷川には、川底をくぐらせる「サイフォン方式」で通し、土地との高低差があり、両側は固い岩という、穴伏川の部分は、川の上を通水橋（龍の渡井（写真））で通す技術を用いました。



・特に「龍の渡井」は、１　　９６５年の大改修の時にも、専門家が「ここは手を加える必要がない」と驚いたほど、高い技術でした。
・１７１５年、才蔵は役人としての勤めを終えます。次の年、紀州藩主徳川吉宗は八代将軍となるのですが、かつて財政の苦しかった藩は、「治水の神様」と呼ばれた才蔵の功績もあり、１４万両のたくわえのある藩になっていました。

龍の渡井（穴伏川をこえ、上に小田井用水が流れる）

～　鯨とともに歩んできた町　太地町　　～

捕鯨発祥の地

太地は古式捕鯨発祥の地として有名な太地町。大々的に捕鯨が始まったのは、慶長 11 年（1606 年）のことでした。太地の豪族、和田家一族の忠兵衛頼元が尾張師崎（愛知県知多半島の突端）の漁師・伝次と堺の浪人伊右衛門と捕鯨技術の研究を進め、突捕り法による捕鯨を始めました。突捕捕鯨一銛による捕鯨です。

紀州藩の保護もあって、太地の捕鯨は、天下に名をとどろかせました。

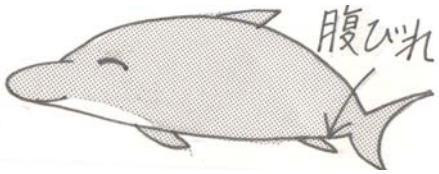
明治になって西洋式捕鯨法が入ってきたことや、鯨の回遊が減ったことで、太地捕鯨は少なくなってきました。現在の太地町は、近海での小型捕鯨で、古式捕鯨を行い、その伝統を受け継ぐことで、「くじらの町」として在り続けています。

くじらの博物館（表紙写真参照）

世界一のスケールを誇る、太地町くじらの博物館。そこには、鯨類の骨格標本や古式捕鯨の道具、古式捕鯨のジオラマ、近代捕鯨の銛や大砲、キャッチャーボート模型など約 1,000 点もの鯨の生態や捕鯨の資料などが展示。400 年もの太地の捕鯨の歴史を知ることが出来ます。

また、自然に囲まれたプールでは、シャチ、イルカと触れあうことも。貴重な歴史、シャチ、イルカと触れあい。楽しい体験はいかがですか？

先祖帰りしたイルカ（はるか）



くじらの博物館にいるイルカの「はるか」は気だてがよく人なつっこいイルカです。そして、世界でたった 1 頭の大変珍しいイルカです。どういうところが珍しいのかと言いますと、イルカは 3,000 万年以上前には、腹びれが、あったのですが、進化の過程で消失し、今はありません。でも、はるかには、その腹びれがあるのです。これは、3,000 万年以上前の時代に先祖返りしたものだと言われ、進化の歴史をひも解く大きな存在として注目されています。「はるか」は上下左右から見ることの出来るトンネル型水槽でいつも気持ちよさそうに泳いでいます。かわいらしい姿を是非間近で見てください。

ホエールウォッチング

鯨を間近でみる、クルージングもあります。

太地町ホームページ http://www.town.taiji.wakayama.jp/

～和歌山の夏を代表する祭りを紹介します～

★那智の火祭り

・毎年 7 月 14 日に行われる熊野那智大社の例大祭。金の扇を飾り付けた扇御輿が主役なので、扇祭りとも呼ばれます。
・昔、神武天皇が那智山中に光り輝く御滝を見つけ、祀った所が、現在の飛瀧（ひろう）神社の前身。そして仁徳天皇の代に御瀧全体が見渡せる所に那智大社が創建されました。
・　那智の火祭りでは、那智大社で儀式を終えた１２体の扇御輿が飛瀧神社へと向かいます。飛瀧神社からは出迎えるための１２本の大松明が石段を上がり、出会い、もみ合った後、火の力で清められた扇御輿が大松明の先導で､飛瀧神社へ下ります。火は参道も清めています。その勇壮な神事は毎年大勢の観光客で賑わいます。

★ 紀州おどり「ぶんだら節」
★第６回おどるんや　～紀州よさこい祭り～

・紀州おどり「ぶんだら節」は、今年 41 回目。昭和 44 年に和歌山市制施行 80 周年を記念して始まりました。踊りに使われる「ぶんだら節」は、江戸時代の豪商･紀伊国屋文左衛門をイメージした民謡です。文左衛門を何度も繰り返して言ううちに「ぶんだら」が出てきたという説もあります。

ぶんだら節

・「5 年後の和歌山は変わる」を合言葉に始まった「おどるんや～紀州よさこい祭り～」。お祭りを通じて和歌山を元気にしようと、市民の有志が集まって始め、年々参加踊り子･観客が増えて和歌山を代表するお祭りに成長しました。出演者、観客、ボランティアスタッフを含め、参加者が一緒になって創りあげられている点が紀州よさこい祭りの魅力です。

紀州よさこい祭り

・今年は「ぶんだら節」は８月１日、「紀州よさこい祭り」は８月１日、２日の両日に開催されました。８月１日は、両祭りの同時開催となり、１５万人が来場、参加者と観客の活気と熱気に和歌山市内が溢れました。

★「粉河祭」・「田辺祭」

・**「田辺祭」**は、田辺市中心部にある闘鶏神社、**「粉河祭」**は、紀の川市粉河にある粉河産土神社の例祭です。

・両祭りは、５月に行われる、和歌山市にある紀州東照宮の**「和歌祭」**とともに、**『紀州三大祭』**といわれています。

田辺祭

・毎年７月２４日（宵宮）・２５日（本祭）に行われる田辺祭りは、闘鶏神社を中心に市内を回る笠鉾巡業。本祭は、朝４時に始まるので「暁の祭典」とも呼ばれます。１６０５年に流鏑馬神事が行われ、１６７２年には山車が出た記録がある歴史のある祭りです。華やかな笠鉾（山車（田辺では「お笠」とも呼ぶ）が町内を練り歩く様子は、絢爛豪華。闘鶏神社でのお勤めの後、会津川河口近くの会津橋に曳き揃えられ、川面に美しい灯を映し出す姿は、田辺祭の名物の一つ。

田辺祭

粉河祭

・毎年７月の最終の土日に行われる粉河祭は、神社の御輿が粉河寺を出て、真っ直ぐの参道を南へ向かいます。それぞれのまちからは山車が繰り出され、太鼓と鉦の山車ばやしも加わり、華やかさと熱気をもたらします。宵祭にはちょうちんに火が灯り、きらびやかに装飾されただんじりが勇壮に運行。本祭では宵祭と姿を変え、数十本の竹ひごが丸く垂れ下がり餅花が付けられた「ひげこ」で飾られた、だんじりが運行されます。「ひげこ」の山車は神様が天から降りてくることを願い、頂に火をつけて神様の道しるべにしたとされているものです。奈良時代に粉河寺を創建した大伴孔子古。息子の船主は奥州征伐で功をあげて凱旋したといい、その時の様子を伝えるものが、中世の風習が残る雅やかな行列「お渡り」です。

粉河祭

・「那智の火祭」と「粉河祭」は、「**プレミア和歌山**（和歌山県優良県産品推奨制度）」に選ばれています。

～編集後記～

二十四節気の上では、立秋を迎えましたが、８月に入りまだまだ暑い日が続いています。お盆を迎え、皆様はいかがお過ごしでしょうか。ふるさと和歌山に郷帰りをされている方々もおられることと存じます。

８月は、全国各地で、花火大会や盆踊り、灯籠流し、楽車に代表される夏祭りなど、日本の伝統と文化が凝縮されている季節であると思います。子ども達は、夏休みのまっただ中です。私が子供の頃は、部屋にクーラーなど無く、軒下に風鈴を吊して家族みんなが集まって縁台での夕涼みや部屋いっぱいに大きな蚊帳を張り、家族一緒で寝床についたものでした。

しかしながら、現在は核家族化が進むとともに、部屋毎にクーラーがあるなど生活形態も変わり、以前と比べて夏の季節感は少し違ったものになっています。そして、それぞれの地域の昔からの風習や伝統が徐々に無くなってきているのもまた事実です。

些細な風習にも一つ一つに意味があります。また、格子戸や畳、蚊帳などは、日本独特の蒸し暑い夏を過ごす知恵であり伝統として、日本の気候風土とともに歩んできたのだと思います。日本家屋に癒しを感じ、田舎の原風景に元気をもらうのは、私たちの心や体に染みついた自然なものかもしれません。

ふるさと和歌山を守っていくため、私達が真剣に家庭や学校、地域ぐるみで子供達にそうした伝統や風習、地域のしきたり等を正しく、しっかりと引継いでいくことが重要であると思います。

知事室秘書課長　藤川　崇

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

（下記のＦＡＸ（様式自由）、Ｅ-Mail 等でお願いします。）

■FAX 073-422-4032

■E-mail　e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ　http://www.pref.wakayama.lg.jp/　ふるさと和歌山応援サイト　http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。

2009 年（平成 21 年）８月　NO.17

和歌山県　秘書課
〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通１－１
TEL 073-441-2022